

〇〇〇株式会社 御中

# ISO14001グループ取得のご提案

有限会社オフィスネットワーク

# マネジメントとは？

◆ほとんど日本語になっている“マネジメント”の意味を考えたことがありますか

- 広辞苑では管理・処理・経営
- では何のために管理・処理・経営するのでしょうか

◆ISOの用語の定義では

- 方針「方針及び目的」を定め、その目的を達成するために用いられる相互に関連する要素の集まり(マネジメントシステム)



目指すものやゴールがあって初めて管理・処理・経営の意味が出てくるのです

# グループ会社間でこんな問題は起きていませんか？

- ◆ 他の会社のことには無関心
  - 自分の会社さえ良ければよい
- ◆ 言いたいことが言えない
  - 小さな問題は指摘するが根本的な問題には触れない
- ◆ 多重投資など経営が効率的に行われていない
- ◆ 経営がバラバラで一体感を感じない
  - グループの強みが発揮できない
  - グループで何を目指しているのか分からない
  - 最新情報が回ってこない

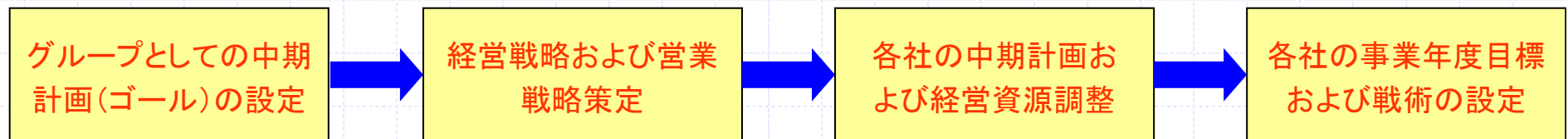
**大企業病の兆候です!!**

**会社間での壁や組織の硬直化が始まりかけています**

# なぜグループ取得なのか

◆各社が目指すゴールとグループが目指すゴールは同じですか

- グループとしてのゴールを示さなければ、各社の目標は設定できない
  - ◆ マネジメントの意味を思い出してください



# グループとしての目標を持ち同じ ゴールを目指す!!



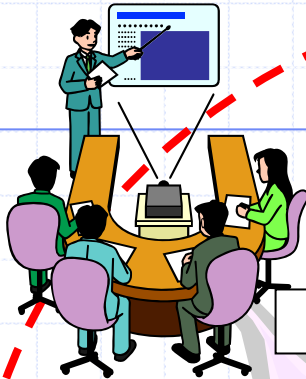
## ◆営業はグループのコア

- 中核抜きでのマネジメントシステムは無意味

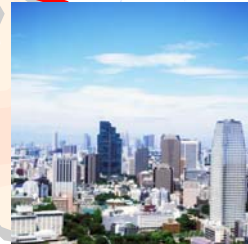
## ◆情報の共有化は企業戦略として必須

- 情報は全社で使ってこそ意味がある

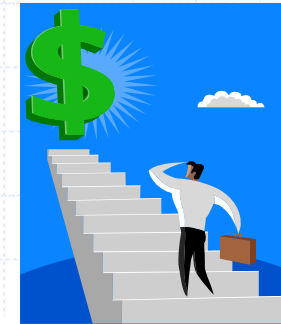
# グループ取得と情報共有化のメリット



〇〇産業



〇〇産業営業所



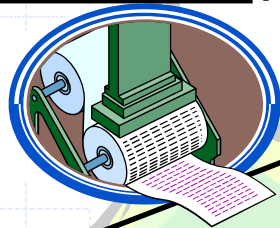
## 情報の環

- ・組織間の有益な情報交換の実現
- ・資源の有効活用および評価
- ・ナレッジ情報を基にした迅速な意思決定

- ・売上目標の明確化
- ・目標管理と問題点の把握
- ・進捗状況の監視
- ・営業情報の共有化
- ・顧客情報のフィードバック



〇〇製本



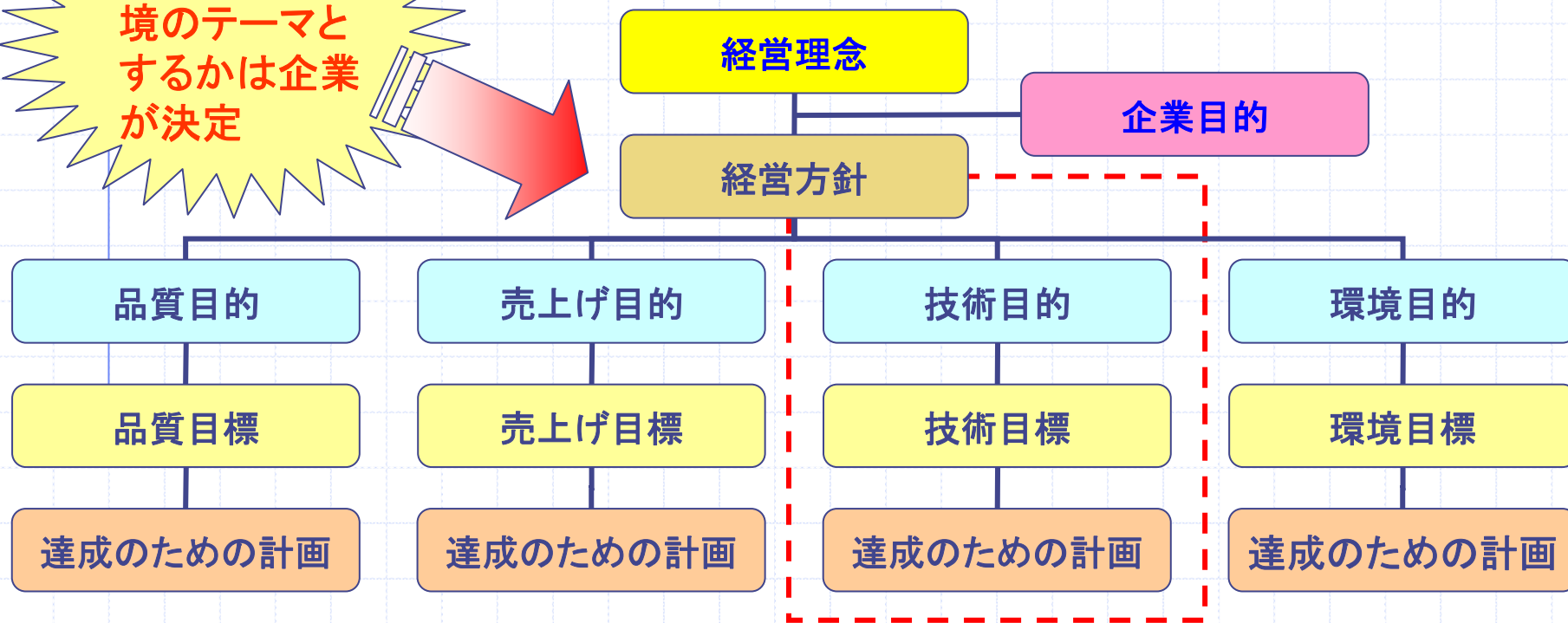
〇〇印刷

- ・上司と部下、グループ間での情報交換
- ・進捗状況のリアルタイム管理
- ・製造計画の効率化



# ISOが求めているもの

どこまでを環境のテーマとするかは企業が決定



一つの組織とすることも可能

- ISOでは、この流れを作ることを要求しており、個人や組織を活用する仕組みを作ることが可能です
- 経営者だけではなく、全員参加のシステムです

# ISOは経営のツール

## ◆世間のISOは

- カミ・ゴミ・電気の削減に終始している
- 文書や記録作りに追われている
- ホントのISOを理解していない組織がいっぱい

## ◆ISOを導入しても利益や効果が挙がらないのは当然

- 2004年版では上記を反省し、本業に取組むことを求めている！

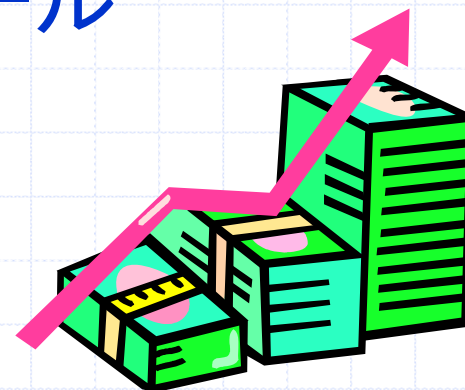




# 組み込まれているツールとして

## ◆ 儲けに繋がるマネジメントツール

1. 目標達成の仕組み
2. 経営者の見直し

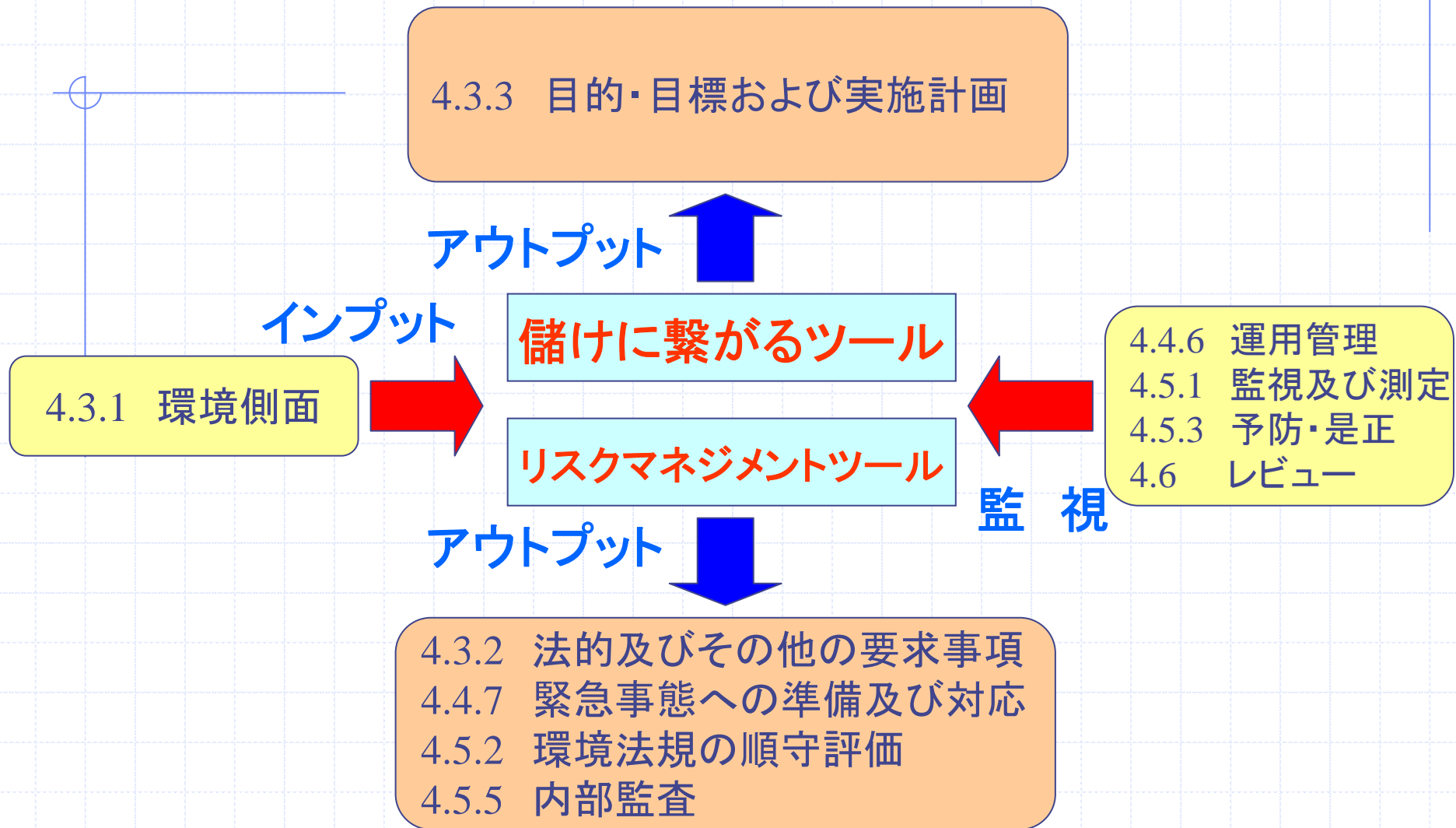


## ◆ リスク回避のマネジメントツール

3. Compliance(遵法性)への活動
4. 緊急事態への対応活動
5. 内部告発の仕組み

企業経営の必須がISOを導入することで必然的に行われることになる

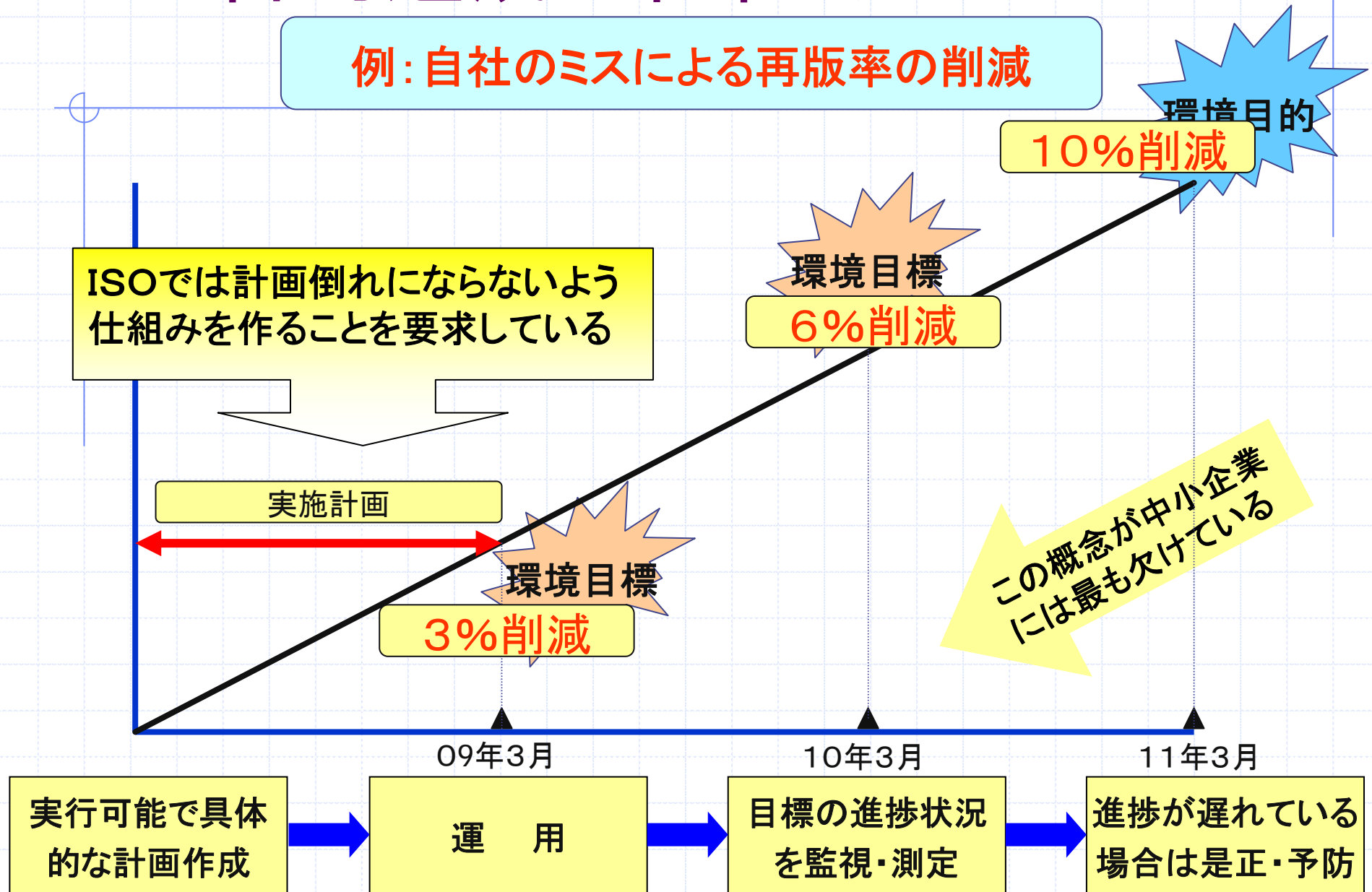
# ISOの要求事項の概要



各要素が繋がっており、構築・運用次第で企業経営の背骨になる

# 1. 目的達成の仕組み

例：自社のミスによる再版率の削減



# 他社の環境目標のテーマには

自動車メーカー

車体の軽量化・ロングライフ設計  
燃費効率の良いエンジンの開発

家電メーカー

消費電力が少ない製品の開発  
商品の軽量化やロングライフ化

製造業

効率的なライン設計  
不良率の低減や納期の短縮

土木建設業

環境や景観に配慮した道路や橋梁の設計、  
グリーン住宅の販売、納期の短縮

# グループで目標となりうるテーマ1

部門	テーマの例	効果
管理系	購買先管理→商品開発、過剰包装、梱包材の引取り	環境配慮、納入額の値引き
	勤怠管理→残業や休日出勤の抑制	電気代削減、人件費削減
営業系	業務提案→環境に配慮した製品(リサイクル紙、特殊紙、ソイインクなど)を提案	営業企画力の向上
	紙媒体以外への展開	新規事業への参入

# グループで目標となりうるテーマ2

部門	テーマの例	効果
現場系	打合せなどの効率化	経費削減
	効率的な作業→外注管理や要求事項の明確化	ミス防止
共通	ミスの防止	利益向上、低価格対応、産廃の削減
	業務効率化の推進→社内での工程設計や一層のシステム化	納期の短縮化

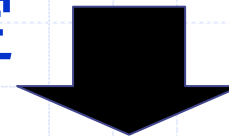


## 2. 経営者の見直し

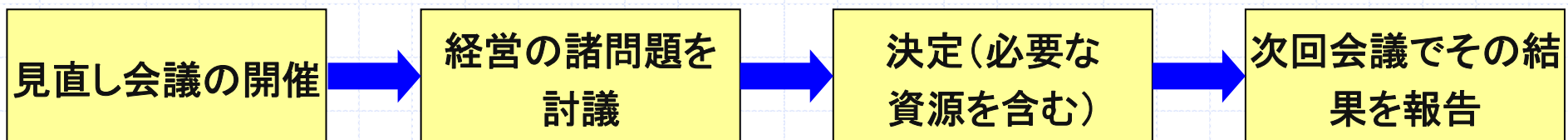
### ◆定期的に実施

- 目的・目標、実施計画の運用状況
- 環境法規の順守状況
- 利害関係者からの苦情やクレーム内容確認

### ◆社長が関与し自らが決定



目的を持った経営会議が開催できる  
グループ各社が出席するため一体感が増す



# 3. Complianceへの活動

21世紀は法律の順守が求められる時代

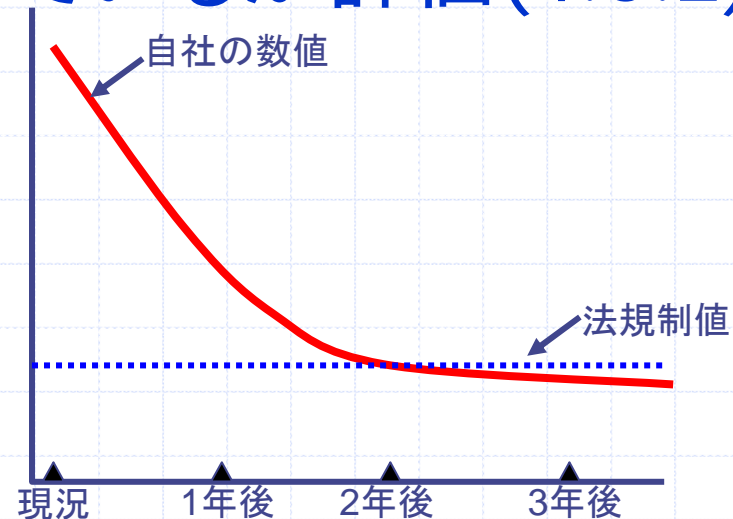
- ・「法律を知らなかった」では済まされない
- ・企業責任を果たせない組織は市場から退場

◆環境法規を特定(4.3.2)

◆環境法規が順守されているか評価(4.5.2)

環境法規が順守できない場合は

- ・順守できるような中期的計画を立てる
- ・測定結果を定期的に評価し、適切な処置をとる



法律の特定

監視・測定計画  
の立案

監視・測定の実施

順法性確認  
経営会議に報告

# 特に注意する法律は

環境側面	環境影響	適用法規
	騒音 振動	騒音防止法 振動防止方
	水質汚濁 土壌汚染	水質汚濁防止法 土壌汚染防止法
	土壌汚染 発がん性	PCB特別処理法
	廃棄物発生	産廃法
薬品類 油脂類	水質汚濁 土壌汚染	産廃法

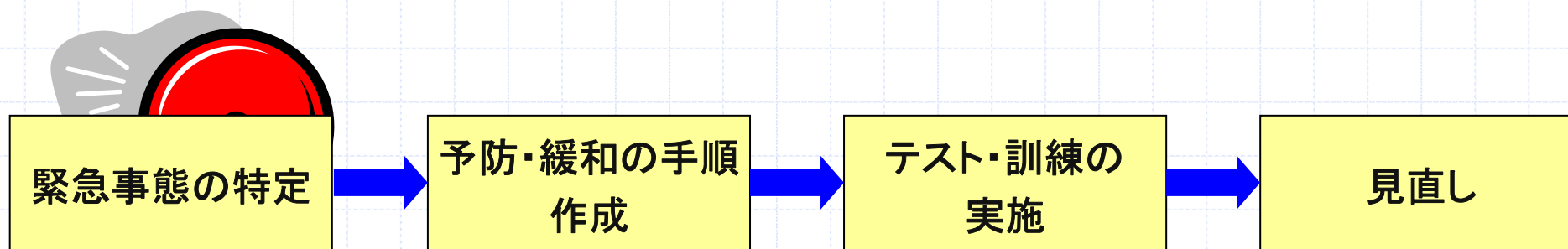


## 4. 緊急事態への対応



◆ 事故や緊急事態の発生は企業にとって致命的

- 操業再開までのコスト
- 顧客や住民からの不信感
- 最悪、操業停止へ追い込まれる



ISOでは、組織が特定した緊急事態に対し、予防・訓練を求めている

# 5. 内部告発の仕組み

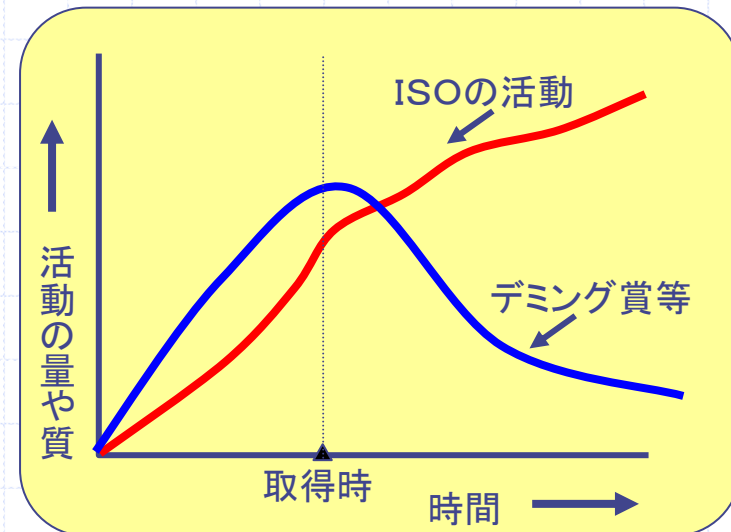
— 大袈裟ですが馴れ合いを無くすための仕組みがあります —

◆グループ間で定期的に内部監査を実施し適合性や有効性を監視

◆定期審査によるシステムの継続的な改善

その他のメリットとして

- ・役に立つ仕組み(儲けに繋がっている)か確認できる
- ・会社を越え横断的に実施するため自然に、他社の状況が分かってくる



監査計画の策定

監査の実施

問題箇所の指摘

是正処置の実施

# ISO14001の本質

## ◆「企業の体質改善を継続的改善するマネジメントシステム」

- 高コスト体質→コストダウン(軽量化、小型化などによる省資源製品化や手戻り品の防止)
- 従来型→技術革新型(エコ製品の開発など)による高付加価値製品の開発

企業のコストダウンと技術革新により、儲けに繋がる仕組みが潜在的に組み込まれている